

ICT教育通信

令和6年3月22日
第7号 小郡市教育委員会

令和5年度小郡市ICT教育取組状況評価（タブレットに係るアンケート結果）より

タブレット活用開始から本年度で3年間（第1期）が終わります。「組織化」（R3）→「日常化」（R4）→「充実化」（R5）という年次目標を推進委員会で立て取組を進めたこの3年間でした。

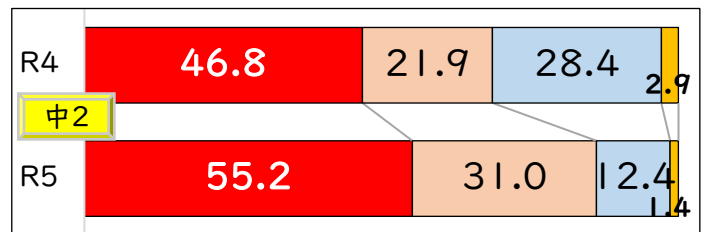
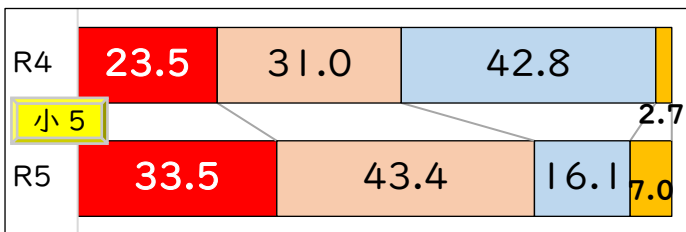
本年度に行った「市ICT教育取組状況評価」結果では、授業での活用が大きく進んだことがわかります。2月の推進委員会では学校からの声として「学年会や職員室で気軽に聞き合える雰囲気作りができた。」「校内でも学力推進とICT活用が一体となって取り組むことができた。」「全職員が関わる形でのICT活用が進んだ。」等の報告をいただいています。これまで真摯に授業改善を進め、子どもの力を高めていただいた各学校の先生方に心から感謝申し上げます。

これからのICT活用による主体的・協働的・創造的な学びが子どもたちの「未来を拓く力（自律・共想・郷生）」の育成につながると信じ、市教育委員会として学校支援にさらに努めてまいりたいと思います。

教育長 秋永 晃生

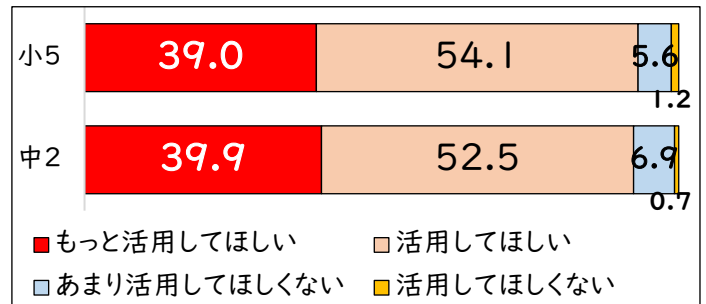
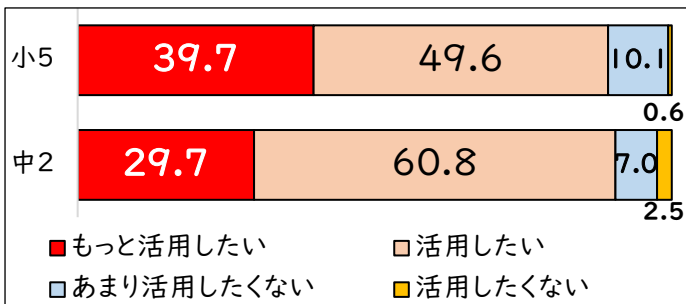
◆授業では、どのくらい使っていますか。【児童生徒】

■ 毎日 □ 週に3回程度 □ 週に1回～2回 ■ 月に1回



◆これからもタブレットを活用したいですか【児童生徒】

◆これからもタブレットの活用を進めてほしいですか【保護者】



◆タブレット活用のよさ

児童生徒

- ・たくさん調べられるし、共有ノートを使って、友達と共有することができる。
- ・発表は苦手だけど、タブレットなら自分の意見を書きやすい。
- ・タブレットがあることで、グループ活動で活発的な話し合いができるようになった。
- ・英語の教科書を読み取り発音などを何度も聞き返して発音の練習などができる。



保護者

- ・多角的な視点で学習をとらえたり、言語以外の方法で自己表現をしたり、多様な視点を身につけることができる。また、画像や音声を使って学習できるので、文字だけよりも理解しやすくなると思う。
- ・これまでの発表はレポートにまとめたものを言葉で説明することが多かったが、職場体験の発表では、プレゼンなどを使って分かりやすくまとめ、発表する姿を見て、このような力をつけてほしいと感じた。
- ・高校でもタブレットでの授業が増えると思うので、中学の内に慣れていてもらいたい。

教職員

- ・子どもたちが資料をよく見て（細かいところはズームしたり、2つを見比べたりして）考えをつくり、その考えを、資料を見せながら交流することで、説明が少しずつ上達しているように感じる。
- ・視覚支援が必要な子どもや、文字を書くのが困難な子どもがその困難さを克服することができる。
- ・学習内容を分析したり、お互いの考えを出し合い創造したりするような活動にも活用できる。
- ・スタディログを活用することで、既習内容を確認し、家庭学習に活用できる。

小郡市ICT教育推進委員会・小郡市ICT教育推進モデル校に携わっていただいた校長先生より

“最新のオフィス”を検索してみてください。「ICT機器(PC、タブレット、大型モニター等)」「個の作業スペース」「協働の作業スペース」。必要に応じてプロジェクトの話し合いが行われ、プレゼンテーションや資料はモニターやタブレットで共有される。子どもたちはきっとそのような環境で仕事をするのだと思います。そこでICT機器を使うことは当然です。モラルを含めたICT機器活用力の育成は、子どもの進路保障の要素の一つなのです。

推進委員会での授業公開や先進校視察、実践交流で学んだことは、「子どもが強い目的意識をもち、その達成を目指す授業」「子どもが必要なときに、協働し情報を共有する授業」です。このような授業を参観したとき、“最新のオフィス”の様子が思い浮かびました。もちろん、これまでの学習指導で大切にしてきた、子どもの「学び方や見方・考え方」の積み上げ、教師の「教材研究や指導・支援の技術」は、授業の必須です。

「授業観」の転換期に教育現場に在ることをうれしく思います。

小郡市ICT教育推進委員会 委員長 石井 裕一 校長

本校は令和4年度より「福岡県情報活用能力向上事業」の委託を受け、実践に取り組んでいます。本年度は「パフォーマンス課題の設定」を位置付け、発信力の向上を意図した学習活動に取り組んできました。発信まで繋げるために、タイピング能力向上を含め、情報の収集・分析、思考ツールを活用しての思考・判断能力の育成を図りました。そして、QRコードを活用したり、他校の協力も得たりしながら、様々な発信活動に取り組んできました。子どもたちは発信まで意識することで学習意欲も持続し、タブレットを本当に文房具のように活用しています。

令和6年度からは、県の重点課題研究「STEAM教育等の教科等横断的な教育課程の編成」に取り組めます。総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、教科で身につけた情報活用能力を活かし、地域の方々を巻き込みながら、楽しく学習を進めていくための教育課程を編成します。子どもたちが近い未来で必ず必要とされる情報活用能力の定着・向上をめざし、学校全体・地域全体で取り組んでいこうと思います。

小郡市ICT教育推進モデル校 江上 征一 校長

令和6年度小郡市 ICT 教育推進に向けて

【「小郡市ICT教育推進計画《第2期》」策定について】

本市においては、令和3年に「小郡市ICT教育推進計画《第1期》」を策定し、令和5年度までの第1期の取組を進めました。この中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、協働的な学びを重視しつつ、多様な子どもたち一人一人に個別最適化された学びが保障されるよう努めてきました。

その結果、学校全体、市全体としてのICT活用は進みましたが、児童生徒が「学びの主体者」としてタブレット端末を活用した授業づくりや、学校間・教師間におけるICT活用格差などが新たな課題として明らかになっています。こうした成果と課題を整理し、さらに、学校と教育委員会が教育のICT化の考えや方向性等のビジョンを共有し、市全体が一体となって教育DXの推進に取り組んでいけるよう、「小郡市ICT教育推進計画《第2期》」を策定しました。この計画は、令和6年度から8年度までの3年間を実施期間としており、図1は、目標とそれを達成するための5つの基本方針、関連する教育委員会や学校の取組等の関係を全体構想図として表しています。

【「小郡市情報モラル教育基底カリキュラム」策定について】

今年度は市内の推進モデル校で作成した情報活用能力育成年間計画を基盤に、ICT教育推進委員会で協議を行い、「令和6年度小郡市情報モラル教育基底カリキュラム」の策定を行いました。健康・安全・社会への影響を自ら考えることのできる子どもたちを育てるために、全校での活用・実践をお願いします。



「小郡市情報モラル教育基底カリキュラム」2次元コード

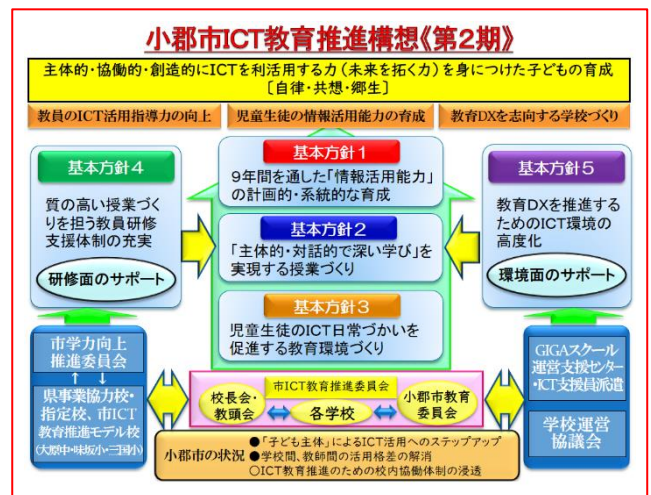


図1 小郡市 ICT 教育推進構想図